

全国漁業信用基金協会宮崎支所

理事 日高 光明

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様には、日ごろから温かいご支援、ご協力を頂き誠にありがとうございます。

さて、昨年、年始挨拶にも書かせていただきました新型コロナウイルス感染症ですが、初めての感染報告があつて以来2年近くがたとうとしている現在、ようやく落ち着きを見せ県内のいたるところで以前の活気が戻りつつあるようです。しかしながらここに来てギリシャ文字で15番目の「オミクロン株」と命名された新しい変異株が南アフリカを中心に感染を広げており、デルタ株よりも強い感染力が指摘されるなど日本を含めた各国で警戒を強めているというニュースが入ってきました。皆様方も感染防止に十分に留意し日常生活を送っていただきたいと思ひます。



また、昨年は県内への大型台風の来襲はなかったものの、夏場の大雨が各地に被害をもたらすとともに、海上では小笠原諸島付近での海底火山の噴火に由来する軽石が漁船の航行、漁業操業へ障害をもたらしており、コロナウイルスとともに年々自然の驚異が増してきたことを身をもって経験した一年であったと思ひます。さらにこのコロナウイルスについては、石油価格の上昇による漁業用燃油高騰をもたらすなど、自然の驚異とともに我々の事業に直接影響を及ぼす事態を引き起こしており、もうしばらくは我慢を続ける必要があるように感じております。

しかしながら、人間の知恵は自然の猛威を一つ一つ乗り越えながら進化していく力を備えているところであり、ウイルスにはワクチンで対応してきましたように、これら自然界からの試練に対しても知恵と勇気で対応していけるものと信じております。

浜ではこれらの驚異以外にも、水揚不振・魚価安・就業者の減少といった問題も抱えており、系統・行政においてもこれらの問題に向き合い各種施策を実施しながら支援に邁進しているところであり、我々保証機関においても、昨年、宮崎県漁業信用基金協会時代を含め初めて市中の金融機関と契約を結ぶなど保証の裾野を広げ、柔軟な保証対応に着手したところであり、漁業者の声に真摯に対応することはもちろんのこと、漁業の成長産業化を支援できるよう、系統唯一の保証機関として将来の浜を担う漁業経営体を金融の側面から支援を行っていく所存でありますので、会員の皆様をはじめ関係団体の皆様にはご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、新しい年が、皆様にとりまして希望に満ちた明るい年になりますように、心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

